

Aprire



秋田大学広報誌〈アプリーレ〉

No. **47**
2015

特集

地域貢献

アンケートご協力をお願い
WEBからもご回答いただけます。
くわしくはP11をご覧ください。



秋田大学「地(知)の拠点整備事業」 =COC(Center Of Community)事業= した高齢社会に向けた地域づくり

秋田大学は、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業」において、「一人ひとりを大切にし、自立した高齢社会に向けた地域づくり」をメインテーマに、超高齢社会における地域の課題解決に向けた取り組みを進めています。秋田県は人口減少率、少子高齢化率とも日本であり、この少子高齢化問題を秋田県最大の課題ととらえ、連携自治体と協議し3つのテーマと5つの取組課題を選定しました。事業期間は29年度までの5年間。秋田大学、秋田県及び事業参加自治体(横手市・北秋田市・潟上市)の3者が協働で各市から提案された個別課題の解決に取り組むこととして、将来に希望の持てる地域生活モデルの構築を目指しています。

地(知)の拠点として

1. 地域の課題

秋田県は2040年には10人に43人が65歳以上の高齢者で構成される超高齢社会が到来することが予測されています。これは、連携自治体の横手市、北秋田市、潟上市の高齢化率においても同様で、核家族化の進展や地域のつながりが希薄になる中、地震時の対応や看護・医療面、地域に活気を生み出す伝統文化の継承、さらには長年親しまれてきた小学校が無くなることによる地域紐帯の欠如など、多くの点で不安を抱えることとなります。COC事業ではそうした不安を解消するため乗り越えるべき5つの課題を設定しました。

2. テーマの設定(下図参照)

テーマの設定にあたっては、秋田大学が連携協定を締結している14市町村の中から連携活動で成果をあげてきた横手市、北秋田市、潟上市と十分な協議を重ね、超高齢社会における乗り越えるべき喫緊の問題として3つのテーマに分類した5つの課題を掲げています。

3. 取り組みと体制

COC事業の採択を契機に、第2期中期目標と中期計画に「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進すること

4. 活動状況

平成26年度の取り組みのうち、次の3つについて紹介します。



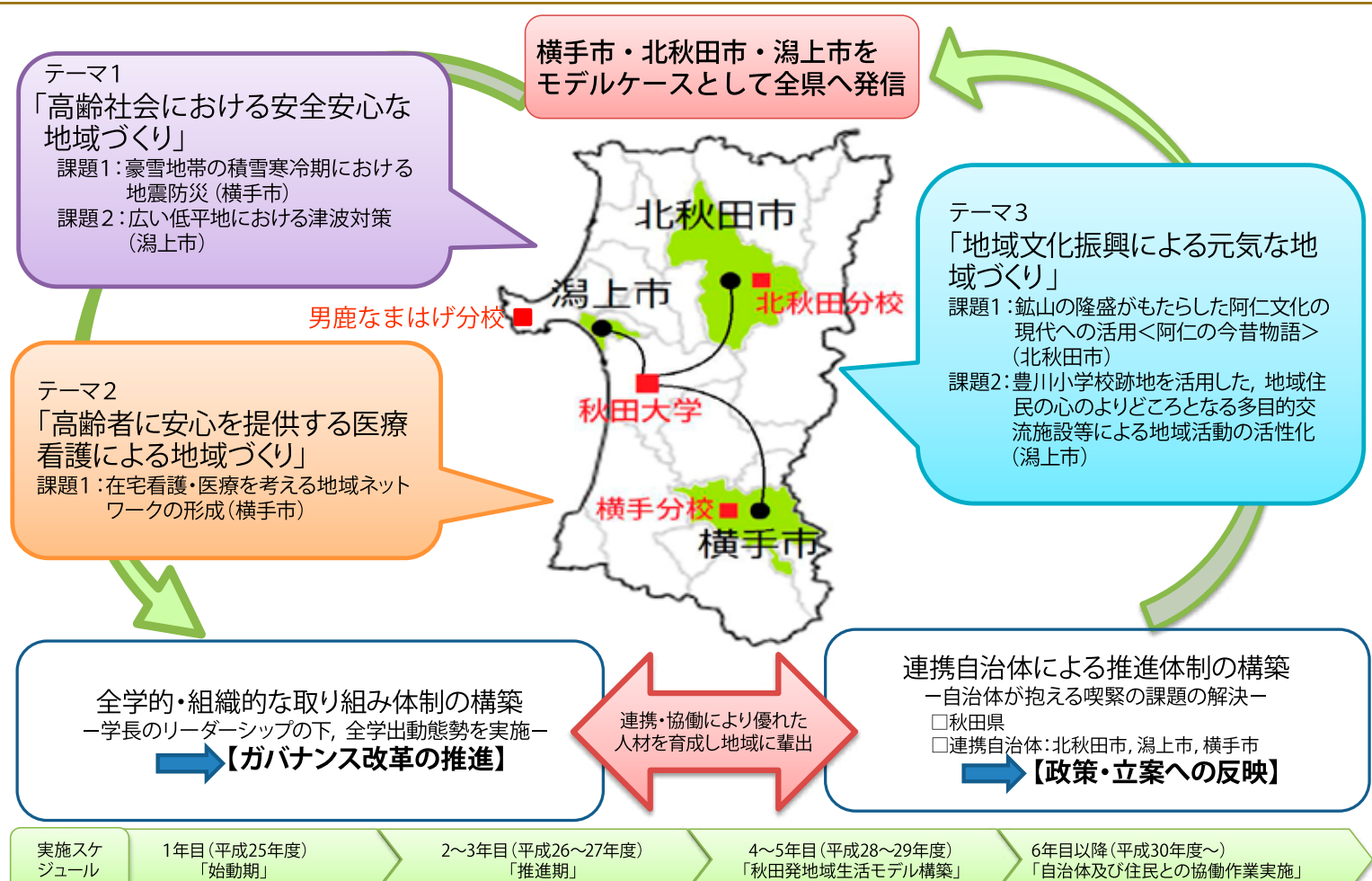
第2回COC実行委員会

を明示しました。また、11月に公表された「澤田ビジョン2014」世界・地域を視野に入れた独自の挑戦として「地域共同体の中核的存在として地(知)の拠点整備事業を推進します」とし、社会貢献として地域の活性化に積極的に取り組むこととしています。この課題解決のためには、学長をトップとした学内体制の整備や多くの学生の参加と教員の協力という全学的・総合的な取り組みが不可欠となっています。また、事業の推進にあたっては、各学部から推薦された教員によるCOC実行委員会組織を設け、秋田県、参画自治体と連携しながら事業を進めています。



フォーラム2014 in 北秋田

「一人ひとりを大切にし、自立した高齢社会に向けた地域づくり」事業イメージ図



特集

地域貢献



文部科学省

地(知)の拠点

一人ひとりを大切に、自立

平成26年度は連携展を3回開催しました。第1回は4月26日～5月25日の日程で「阿仁の鉾山絵巻」、第2回は7月24日～8月31日の日程で「秋田古銭物語」。第3回は11月7日～1月18日の日程で「道が支えた阿仁鉾山」を開催中です。



第2回連携展「秋田古銭物語」(阿仁伝承館)



第3回連携展「道が支えた阿仁鉾山」

「阿仁からめ節」の3D映像とともに、地元阿仁中学校の9名の生徒に阿仁からめ節を踊っていただき、伝統文化の継承に向けた取り組みについてアピールがありました。

11月21日に北秋田市と共催で阿仁ふるさと文化センターを会場に開催し、地元住民など約200名が参加。前半は、高知大学教育研究部の荻原一郎教授から「江戸時代の阿仁鉾山と地域」と題して記念講演があり、後半は、本学の教員3名からこれまでの取り組み内容について事業報告がありました。終わりに、平成25年度にモーションキャプチャーを使って収録した



フォーラム2014 in 北秋田 (阿仁中学校生徒による「阿仁からめ節」の踊り)

阿仁伝承館・秋田大学連携展の開催
地域文化振興による
元気な地域づくり

COC事業フォーラム
2014 in 北秋田の開催
鉾山の隆盛がもたらした
阿仁文化の現代への活用

日本聞き書き学校と共催で男鹿観光ホテルを会場に8月29日から3日間の日程で開催しました。聞き書きとは、人生の先輩の話を聞いて、それを記録し後世に残すことです。高齢者から「楽しかったこと」「つらかったこと」などを学ぶとともに、高齢者にとっては話すことで生きがいを感じること



聞き書きの実践風景

に繋げるものです。全国から集まった90名の聞き書きの仲間たちが、技能研修に取り

地元の男鹿市の御支援と御協力をいただきながら盛会裏に終了しました。

組むとともに活発な情報交換を行いました。期間中、秋田大学の佐藤稔名誉教授が「秋田(男鹿)の方言について」と題して基調講演、柳田邦男校長からは「人は物語を生きている」「語ること」「書くこと」の深い意味」と題して特別講演があったほか、「男鹿子ども民謡教室」の児童・生徒の秋田民謡と踊りが披露されるなど、

「第3回日本聞き書き学校in男鹿」を開催
聞き書きのスキルアップ

ご存知でしたか？ 秋田大学に分校があることを

秋田大学では、地域貢献の活動拠点として、横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校の3つの分校を開設しています。地域からの要望や課題を的確にくみとり、秋田大学の教育研究資源を提供しつつ、市民の皆さん・地域団体・地元自治体等と協働で解決にあたっています。分校の建物はありますが、地域全体を分校ととらえ、学生や教職員が積極的に地域に出向き、活発に活動しています。

横手分校



平成26年8月30日、秋田大学生9名が横手市山内三又地区を訪れました。秋田大学オフィシャルいぶりがっこ「いぶりばでい」(商標登録済)づくりにおいて最初の作業となる、大根の種まきを行うためです。

秋田県の伝統食品であるいぶりがっこづくりを通して、横手分校は6年間にわたり同地区との交流が続いています。秋田大学と地元の方がみんな(=everybody)でつくるいぶりがっこ「いぶりばでい」。学生たちは各種の作業工程へ携わりながら、農山村の現状についても学びます。

横手分校は、秋田大学と地域を繋ぐ役目を担っています。これからも県南地域の拠点として、「いぶりばでい」をはじめとしたさまざまな地域活性化事業に取り組んでいます。

北秋田分校



北秋田分校では、平成26年度からの新規事業として、棚田の復元から実際に作付けし収穫までの作業工程を一貫して行い、その課題を見だし、いかに克服するかという取り組みを始めました。

具体的には、共同事業主である「森のテラス」が北秋田市森吉に所有する山林やその裾野に広がる水田を活用し、学生が主体となり完全無農薬方式で稲作を行いました。27年度は、秋田大学のブランド米として販売することを目指しています。

北秋田分校ではこのほか、大館市釈迦内地区において地元の小学生と一緒にひまわりを育て、種から生成する油を加工し販売する活動や、県北地区2箇所小中学生を対象に、理科実験を通じて科学への興味を深めてもらうための「科学教室」を開催しています。

男鹿なまはげ分校



男鹿なまはげ分校が中心となり、男鹿市の交流人口を増やす取り組みとして首都圏大学の宿泊合宿誘致を進めています。市の知名度アップや地域経済活性化につながることや、なによりも若い力が地域で躍動する姿が市民に一層の元気をもたらしています。

平成26年度は、明治大学と大東文化大学のレスリング部総勢50名が、8日間にわたり男鹿市総合体育館で強化合宿を行い、日本体育大学駅伝チームは2泊3日の行程で男鹿駅伝競走大会に初出場し、見事優勝を飾りました。また、「ニコニコ体操塾」と銘打った、体操教室と生活に身近なテーマの講座を組み合わせたというユニークな健康講座を本学大学院医学系研究科保健学専攻教員の協力を得て開講し、市民の皆さんが心身ともに健康的に過ごしていただく環境づくりにも取り組んでいます。

学長と学生の懇談会レポート

～みんなで秋田大学のこれからを考えよう！～

澤田賢一学長と学生の懇談会を開催しています。話しやすい雰囲気の中で懇談し、そこで得られた学生の声を今後の大学運営に取り入れることを目的としています。



記念撮影と澤田学長直筆似顔絵 誰が誰だかわかるかな？

第1回懇談会



第2回懇談会



第3回懇談会



11月14日と18日、12月9日に澤田賢一学長と学生の懇談会を行いました。課外活動を活発に行っている各学部2年次を対象に4、6名の学生が参加しました。普段入ることのない学長室に緊張している学生もいる中でスタート。澤田学長が学生たちに自己紹介する際のポイントを伝え、学生たちの紹介がはじまりました。学生たちが出身地や趣味のほか、将来どうなりたいのかなどを話すと、澤田学長は、気になったことをすぐに質問。学生の緊張を巧みな話術でほぐす一幕もあり、和やかな雰囲気になりました。そして、医学部在籍当時から行っているという学生の似顔絵を作成。学生たちは澤田学長にじっと見られ恥ずかしそうにしながらも、特徴を捉えた似顔絵を見て嬉しそうにしています。



似顔絵を描く澤田学長

「この4月に学長に就任し、多くの学生の声を聞く場を作りたいと思った」と澤田学長が懇談会の開催に至る経緯を説明、自身の出身地や経歴のほか、「これから秋田大学をどのようにしていきたいか」なども含めて自己紹介しました。続いて、澤田学長の座右の銘である『塞翁が馬』をメッセージとして贈り、「つらい時こそ力をためて頑張ってください」と激励しました。

後半は、学生が澤田学長に質問や要望を述べるなど、自由な雰囲気で見聞交換が行われました。最後には「キャンパス内で見かけたら、気軽に声をかけてください」と澤田学長が締めくくり、懇談会は終了しました。



懇談後の学長室見学

秋田大学 だより 新しい部署をご紹介

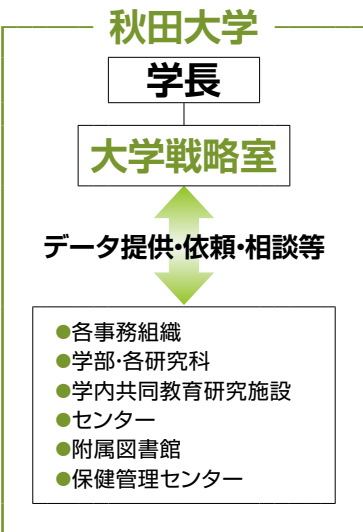
大学戦略室

平成26年7月9日開設

教育改革や新たな研究推進、グローバル化等に関する戦略の企画、立案を機動的に行うことを目的に、学長直属の組織として設置されました。

学長や執行部の経営戦略、横断的かつ戦略的な教育研究等のマネジメントを支援するため、課題ごとに教職協同のプロジェクトチームを組織し対応しています。

〈組織体制図〉



学生サポートルーム

平成26年7月7日開設

障がいのある学生や、大学での勉学や生活などで支援が必要な学生の修学支援を目的として学生支援総合センター内に開設。全ての学生にとって学びやすい環境を整備し、多様な人々と共生していくことへの理解につながる活動を行っています。

〈相談支援の申し込みからフォローアップまで〉

1. 相談支援の申し込み
入学前、入学後に随時受け付けます。本人・保護者・教職員のどなたでも相談できます。
2. 面談
現在困難に感じていることを、お伺いします。
3. 支援内容の確認
支援内容について手立てをご相談します。
4. 支援の開始
実現できる内容から始めます。
5. 評価、フォローアップ
本人・保護者・関係者とともに支援の内容を点検し、次の支援に活かします。

- 一人ひとりの困難やニーズに沿って、学内リソースを活用して支援を計画します。
- 医師によるカウンセリングについては、保健管理センターと連携して行います。
- 相談内容が関係者以外に、承諾なしに知られることはありません。

〈こんなとき〉

- 板書が見えにくいので困っている。
- 試験の時に障がいに応じた配慮をしてほしい。
- 履修計画の立て方が分からないので困っている。
- 時間割がうまくできないので困っている。
- 勉学の補助・支援をお願いしたい。
- 先生の声が聞き取りにくいので、ノートテイクをしてほしい。
- 教材や教科書の文字が小さくて見えにくい困っている。
- 映像の音声小さくて聞き取りにくい困っている。
- 車いすでの構内移動のサポートをしてほしい。

〈お問い合わせ先〉

学生サポートルーム ☎018-889-3142
E-mail: s-room@jimu.akita-u.ac.jp
●開館時間／平日9:00～17:00

総合学務課

平成26年11月1日開設

手形キャンパスにおいて、国際資源学部、教育文化学部、理工学部の各学内にある学務課の業務窓口を一元化し、学務支援センターに開設。各学部・研究科の在学学生、卒業生、卒業生等の証明書発行の手続き等も担当しています。

●窓口開館時間／平日8:30～18:00



ニュース & トピックス News & Topics

NHK大学セミナー @秋田大学「東北発 ☆未来塾」を開催

10月3日、NHK・Eテレで放送中の番組「東北発☆未来塾」と秋田大学がタイアップし、ジャーナリストの津田大介氏と、インドの打楽器タブラ演奏者のJ・nroon(ユザン)氏を講師に招いて、「発信するチカラ」を目標セヨ!!! 地域の魅力を発見し、人に伝える情報発信術」と題したセミナーを手形キャンパスの60周年記念ホールで開催しました。

はじめに、津田氏が「情報発信」の方法について講演しました。続いて、J・nroon(ユザン)氏が登壇し、津田氏と「個人発信」の方法について対談。J・nroonが会場内外からも意見を集め、大型プロジェクターで投影しながら、人を動かす情報発信のポイントなどを解説しました。

また、セミナー開催に先駆け、9月22日～10月3日に手形キャンパスのインフォメーションセンターで事前パネル展を開催。セミナーの概要や講師の紹介、NHK・Eテレ「東北発☆未来塾」の番組紹介などの展示を行いました。



インフォメーションセンターで開催された事前パネル展

秋田大学地域交流 朝市を開催



販売の様子

10月11日、秋田大学手形キャンパスで「秋田大学地域交流朝市」を開催しました。

これは、秋田大学と連携協定を締結している14自治体のうちから5自治体(北秋田市、男鹿市、潟上市、美郷町、横手市)の協力を得、各自治体の名産品や特産品を秋田大学で販売し、秋田大学と自治体との連携の強化を図るとともに、秋田大学の近くに住まいの方々が気軽に秋田大学を訪れる機会となることを目的としました。

販売には10名の学生達が「地域協力サポーター」として加わりました。学生達はこの日のために、事前に商品の製造方法やこだわり、その商品が地域の特産品である理由などについて、直接地域の販売者を訪れ学習し、朝市に臨みました。

当日は朝9時からの開始にもかかわらず1時間前前から訪れる方もおり、地域の方々の期待の高さを窺わせました。美郷町の「ミロサイダー」や男鹿海洋高校のさんま缶など、滅多にお目にかかることのない名産品や新鮮な野菜・山菜などが並び、多くの来訪者が買い求めていました。予定していた時間を迎えることなく売り切れる自治体もあり会場は盛況。販売を手伝った学生は他の自治体に負けないよう売り切ろうと大きな声でアピールしていました。

第六回「八木沢マタギ を語る」@秋田大学

10月15日、第六回「八木沢マタギを語る」@秋田大学を手形キャンパスのインフォメーションセンターで開催しました。



八木沢マタギを語る会の佐藤良美氏

学生や地域の方々に、秋田の伝統文化等に触れる機会を提供することを目的に、八木沢マタギを語る会のご協力の

もと実施。マタギ熊槍、マタギ槍、火縄銃の背負袋(しよいぶくろ)、マタギマキリ、マタギベラ(上小阿仁村有形民俗文化財指定)などの狩猟用具や、馬医学書「新版假名安臈集(かなあんきしゅう)」など古文書、また、民具マタギの衣類を作った機織りの杼(ひ)、石鍬(矢じり)、自然石などを展示しました。

当日は、八木沢マタギを語る会の佐藤良美氏が来場者に展示物の解説等を行いました。

鉱業博物館企画展 「レアアース資源」 の特別講演会

10月26日、秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館で、平成26年度第1回鉱業博物館企画展「レアアース資源―先端技術を支えるビタミン」の特別講演会を開催しました。

国際資源学部の渡辺寧教授が講師を務め、レアアースの発見と利用への模索によって私たちの生活はより快適になったと説明。具体例としてレアアース鉱物「ネオジム」を使った磁石について紹介し、日本人によって開発された本製品は、比較



講演する国際資源学部の渡辺寧教授

的に安価に製造できるうえ、強力な磁力を持つことから、ハイブリッド自動車や家電製品、音響機器、携帯電話などに使用され、技術開発や商品の小型化に役立っていると述べました。レアアースの需要は年々世界中で高まっており、レアアースを得るための今後の技術開発が大きく期待されていると話しました。

天気にも恵まれた当日は、資源利用に関心をお持ちの40名を超える一般市民の方々が参加しました。

外国人留学生の母 国紹介展

11月10日～11月14日、インフォメーションセンターで外国人留学生の母国紹介の企画展を開催しました。

今回はアジアエリアを中心とした留学生の母国紹介を行い、計7カ国を紹介しました。

この企画展には、現在秋田大学に在学する留学生の協力を得て、各国の紹介を実施。地域の方々に含め、学生、教職員が多数訪れました。また企画展開催中



外国人留学生の母国紹介展の様子

教育文化学部附属 小学校創立140 周年

教育文化学部附属小学校は平成26年度で創立140周年を迎え、これまで7717名の卒業生を輩出してきました。11月16日(日)、記念事業「はとの子式典」を挙行了しました。

はじめに、教育文化学部附属小学校の林信太郎校長が挨拶。来賓を代表し、教育文化学部の武田篤学部長が祝辞を述べました。続いて、「140年を振り返って」と題して、児童会役員が作成したスライドを上映し、これまでの軌跡を振り返りました。最後に、児童代表の言葉として、6年の小林穂乃香さんが挨拶しました。

同日、記念講演会・演奏会も開催しました。



教育文化学部附属小学校の林校長

仙北市との連携協 定を締結

11月26日、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的に仙北市と連携協定を締結しました。

締結式では、門脇光浩市長が「2年後の完成を目指す田沢湖クニマス未来館を拠点に、大学の教員・学生、市民も巻き込み、実りある成果を得られるよう共に歩を進めたい。」と挨拶、これを受け澤田賢一学長が「仙北市との共同研究で、田沢湖再生に思いを馳せる地域の皆様の期待に少しでも応えていきたい。」と話しました。

また、記念行事として演奏会と講演会を開催し、はじめに秋田大学ニューブラスアンサンブルメンバー8名が、トランペットやトロンボーンといった金管楽器を用い



仙北市 秋田大学 連携協定締結式

鈴木圭子教授が日本 学術振興会から表彰

医学系研究科の鈴木圭子教授が平成26年度日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)審査委員の表彰を受けました。鈴木教授は、日本学術振興会の科学研究費助成事業の採択審査にあたっての書面審査において有意義な審査意見を付したことなどが評価され、今回の表彰に至りました。

11月27日に学長室で表彰式を挙行し、澤田賢一学長が表彰状と記念品を伝達しました。



鈴木圭子教授(写真中央)

第六回テクノフェスタ

11月29日、「秋田大学総合技術部第六回テクノフェスタ」来て見てさわられるカガクのフシギ」を秋田拠点センターアルヴェのきらめき広場で行いました。

普段は大学教員や学生の教育研究活動をサポートし、「緑の下」の力持ち」となっている技術系職員。テクノフェスタはその職員の専門的な仕事を紹介し、参加者が実験・体験をすることで、大学の教育・研究に興味を持ってもらおうと毎年開催しています。

6回目となる今回は、すず合金を溶かしてアクセサリを作る体験や、コンクリートを用いたパワーウェイト作り、ドライビング

井門正美教授が日本 シミュレーション& ゲーミング学会の学 会賞を受賞

教育文化学部の井門正美教授が日本シミュレーション&ゲーミング学会(JASAG)から学会賞を受賞しました。今回の受賞は、2010年の教育文化学部同賞受賞に続くもので、秋田大学の特色ある大学教育支援プログラムやゲーミング・シミュレーション研究会での中心的な活動、長年の研究教育活動における初中等教育分野への寄与等が評価され、個人での受賞に至りました。

12月6日、JASAG 2014年度秋期全国大会で表彰式が行われました。



井門正美教授(右から2人目) NPO法人JASAG提供



鋳型から取り出したすず合金を磨く 技術系職員と参加者

教員紹介

地域活性化と
学生のキャリア形成

地域創生センター

准教授 濱田 純



これらの地域資源にストーリー性を持たせ、観光資源につなげるため大学と地域をコーディネートすることが北秋田分校の大きな役割だと考えています。

北秋田市の「COC」事業とは。

秋田大学が平成25年に文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(以下、「COC」)に採択され、その一員として北秋田市が提案した「鉾山の隆盛がもたらした阿仁文化の現代への活用(阿仁の今昔物語)」を課題として活動しています。北秋田市阿仁には、明治政府に招聘されたドイツ人の鉾山技師メッセルが設計し、明治15年に建築された通称「阿仁異人館」があります。この建物は明治維新の後に、外国から先端技術を導入し鉾山の近代化が図

地域の活性化と学生は

どんな関係にあるのですか。

北秋田分校やCOCの取り組みには、多くの学生が携わっています。これまで学生が季節に合わせたイベントなどを企画してきました。学生が地域に交じることで、地域に活力を与えられることはもちろんですが、学生が地域課題を地域とともに解決していくプロセスを通して、学生自身のキャリア形成が図られる、ということがポイントです。地域の方々も学生も元氣になり、お互いが成長できることを実感しています。



阿仁冬祭り、阿仁異人館を電飾で飾り付けた学生

今後の展望について

今後は、秋田内陸線を軸に地域活性化のモデルケースを形成し、秋田県内全域、更には全国の地域にも発信できるように取り組んでいくとともに、教育研究機関として、「地域と共に」を掲げる秋田大学として、双方で最大のメリットを発揮できるように活動を展開していきたいと考えています。

(聞き手/広報課 戸澤坂上)

教員紹介

秋田県の地震ナマズと
上手につきあうために

地域創生センター

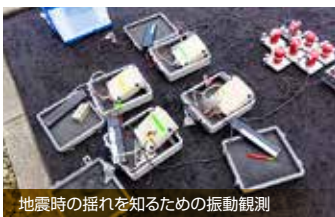
教授 水田 敏彦



日本は世界有数の地震国です。2011年に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)は記憶に新しいことと思います。秋田県においても例外ではな

く、これまで多くの被害地震が発生しています。明治以降を見ても、海域では1983年(昭和58年)日本海中部地震、内陸では1914年(大正3年)秋田仙北地震などがあり、大きな被害を受けています。私の専門は地震工学・地震防災で、都市と防災に関する幅広い研究を行っています。研究活動としては、地域の地震被害や防災問題の調査、地盤や建築物

の地震時の揺れや耐震性能の観測、得られた知識を分かり易く伝達するためのシステム開発を手がけています。中でも過去に秋田県で発生した地震被害の調査は最重要テーマの一つです。被害分布や震災対応の詳細を明らかにする研究に加え、教訓を基にした啓発活動や防災教育を実践しています。例えば秋田仙北地震はM7.1の内陸地震であり、2014年に100年の節目を迎えました。仙北地方を中心に死者94名、負傷者324名の人的被害や、全壊640棟の住家被害が発生した



地震時の揺れを知るための振動観測



防災教育の取り組み

地震です。被災の中心の地名から「強首(こわくび)地震」とも呼ばれ、秋田県地域防災計画の「想定地震」の一つとなっています。早期4時59分、また、冬期間の3月15日に発生した地震でもあり積雪寒冷地である秋田にとって重要な地震です。被害の大小は地震そのものの大きさでは決まらず、発生場所、時期、時刻、社会情

勢などに大きく左右されます。秋田仙北地震は地震被害を拡大する要因を考慮する上で貴重な教訓を残しています。このような歴史地震がもたらした未曾有の被害を忘れることなく、自然の成り立ちや災害の歴史を知り、日頃から備えておくことが重要です。研究活動のほか、地域で開催される防災イベントにも参加し、また、県内の幼保小中高等学校の子供たちへ定期的な防災教育も継続して実施しています。将来秋田県で発生する大地震から人の命を守り、被害を少しでも低減できるよう、研究・開発、地域防災啓発活動を進め、秋田県の安全で安心な街づくりに貢献していきたいと考えています。

世界遺産
白神ぶなの森基金

“私たちから、はじめます”



白神ぶなの森基金に
ご協力頂いている皆様
ありがとうございます。

教員紹介

地層から過去に発生した
津波の履歴を探る

地域創生センター

特任准教授
鎌滝 孝信

私は地域創生センター地域防災部門で、過去に秋田県沿岸部を襲った巨大地震・津波の履歴を明らかにするための研究や、地域で

地震防災・減災について活動できる人材の育成、児童・生徒への防災教育などの社会貢献活動に取り組んでいます。過去に秋田県では、1983年日本海中部地震により大きな被害を受け、79人の方が津波で犠牲になりました。しかしながらそれ以前に秋田県沿岸部に影響を与えた大規模な津波に関しては、その波源や規模などの詳細は分かっていませ

ん。ある地域で将来発生する可能性のある巨大地震を予測するためには、その規模の地震が過去にどれくらいの繰り返し間隔で発生していたかを知る必要があります。海溝型地震を例にとると、日本列島は四方を海に囲まれ、またプレート境界に面した場所に位置していることから、昔から数多くの津波による被害を受けてきました。これらの記録は古文書等の歴史記録に数多く残されていますが、それに残される海溝型巨大地震の歴史は長くても1000～1500年です。2011年東北地方太平洋沖地震のように500～1000年に1回発生するような超巨大地震の繰り返し間隔を調べ

るためには、より長期間に渡る地震の履歴が必要となります。そこで、地震による津波が地層に残した痕跡を調べる手法、すなわち津波堆積物調査がおこなわれることになりました。「津波堆積物」とは、巨大な津波によつて削り取られた海底や海岸の一部が、別の場所に運ばれて再堆積したものを指します。沿岸の地層から「津波堆積物」を探し出し、その形成年代や分布を調べることで過去にその場所を襲った巨大地震の履歴を知ることができ、条



秋田県沿岸部から得られた試料。数字は地表からの深度(m)

件の良い場所では過去数千年間の津波履歴を知ることができそうです。現在、このような研究を秋田県沿岸各地で進めており、過去に秋田県を襲った津波の記録も明らかになりつつあります。日本海側における過去の巨大地震・津波履歴に関する研究は、太平洋側のそれと比べるとまだまだ情報の蓄積が少なく、今後、研究の対象地域を広げながら、日本海側における地震・津波防災に資する研究成果を発信していきたいと考えています。

教員紹介

「地域包括ケア介護予防研修センター」を通しての地域貢献

医学部保健学科／地域包括ケアセンター長

教授
中村 順子

現在、国は団塊の世代（昭和22・23年生まれ）が75歳になる2025年に向けて、「ケアが必要になっても自分が暮らしたい所で最後まで暮らすことができるような支援体制」——いわゆる地域包括ケアシステム——を全ての市町村で作り上げるという方向性で政策を進めています。秋田県は

日本一の高齢化率となり、2014年10月現在で32.6%、県民の3人に1人は65歳以上の高齢者です。秋田大学の医学部保健学科には、看護、理学療法、作業療法と、病気を治すだけでなく生活を支える医療を専門とする3専攻があり、これらはみな高齢者秋田でその専門性を十分に生かし地域に貢献することができると考えています。私は大学教員になる前は



地域・在宅で活動しておりました。また、現在も様々ななかで、大学がその役割を担うこと

ができると思われる地域におけるニーズを感じることが多くありました。また、医学部には医学教育のシミュレーションセンターがあり、これを大学や院内だけでなく県内で活躍する医療職のためにも生かしたいと大学は考えておりました。そこで、平成26年10月1日に医学系研究科附属施設として「地域包括ケア介護予防研修センター」が開設されました。県内唯一の

医学教育機関であることと、前述した保健学科の強みを使い、秋田県の地域包括ケアシステム構築に向けた支援を行うことにしたのです。このセンターの役割は大きく4つと捉えています。1. 現任教育・現在地域で活躍する訪問看護師等の医療職、病院の看護師やコメディカル、介護支援専門員や介護職など医療職に限らず多職種に対する実践力向上のためのスキルアップ講習会の定期的開催。2. 研究支援・地域包括ケアシステムの構築や効果的な展開のための知見の創出。3. 基礎教育・現場に出る前の段階から多職種連携のイメージができる、医療職以外の方々との効果的なコミュニケーション方法を知る

などの基礎的教育の役割。4. 地域住民への直接的貢献。病院近く開設予定の「暮らしの保健室」における相談支援や研修センター内で開催する介護予防プログラムなどを通じた地域住民へ直接的な貢献。大学の使命として地域貢献は大変重要と考えます。高齢者にとって住みやすい秋田県となるように秋田大学の持つ機能を最大限に生かすことが私たちに求められていると思います。私はセンター長を拝命しましたので、今までの経験やつながりも生かしながら、ぜひ県民の皆様が支持していただけるような活動を、このセンターを通して行っていきたいと考えています。皆様よろしくお願いたします。

MORITA FASHION GROUP

モリタ全店
クリアランス
SALE

70%OFF

60%OFF

70%~30% PRICE DOWN

CLEARANCE SALE

40%OFF

30%OFF

50%OFF

70%OFF

60%OFF

50%OFF

40%OFF

30%OFF

20%OFF

10%OFF

バッグが、財布が、キャリーケースがお買い得!!

A p r i l 2 0 1 5 . 0 1

先輩なう。

「医療」に携わり、秋田を支える
OB&OG編

様々な現場で活躍している秋田大学OB・OG。先輩の「今(=なう)」取材しました。

中通リハビリテーション病院
リハビリテーション部 作業療法士◆大学院医学系研究科保健学専攻
博士前期課程 平成24年3月修了
三橋 力也 さん

今の仕事内容、やりがい、また仕事を通じて目指していることを教えてください。

作業療法士として、外来と療養病棟でのリハビリテーションを行っています。けがや病気によって生活を再構築する必要に迫られている患者さんが、その人なりの可能性を見つけ、楽しそうにしていたり、「こんなこともできるんだ」と言ってもらえたりすると嬉しいですね。現状から患者さんの可能性を見つけ、広げていくことが仕事の主な役割だと思います。



今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

人のために、何かしら役に立ちたいという思いがありました。もともと医療福祉関係に興味があり、その時にリハビリテーションの専門職があるということを見つけたのがきっかけです。リハビリテーションには理学療法と作業療法がありますが、生活に密着でき、障がいや悪いものと捉えず向き合っていくことや、身体や精神の障がい者ではなく、一人の人として、個人の想いや環境を含めた包括的なサポートをしたいと考え作業療法を選択しました。



大学院進学を決めた理由を教えてください。

私の中で4年次の臨床実習が非常に印象的で、もっと勉強したい、知識を増やしたいと思うようになり、大学院に進学を決めました。夜間開講であったため働きながら学ぶことができましたので、日中しっかり働いてから、週2回の授業を受けていました。

大学には専門的な学習環境が整っていますので、働いていて疑問に思ったことはすぐに調べることができるというメリットがありました。働きながら勉強することは大変でしたが、それ以上に勉強することが楽しく、今でも博士後期課程に進学できればと考えています。

仕事を行う上で心掛けていることを教えてください。

何事も否定しないということです。たとえ間違っていたとしても否定せず、じっくり話を聞き、どうしてそうなったのかを一緒に考え、一般的な正解よりもその人にとっての正解を見つけていくようにしています。リハビリテーションは、患者さんにとって、時には身体的な痛みだけではなく、精神的な苦痛を伴うこともあります。作業療法士は医師や看護師などよりも、患者さんと一度にまとまった時間を過ごせるため、色々な話を聞いたり、患者さんのことをよく理解した上で、精神的な面もケアすることも大切にしていきたいです。



後輩にメッセージをお願いします。

勉強でも部活動でもアルバイトでも、なんでもいいので一生懸命やってください。勉強を一生懸命していれば、その知識を患者さんに伝えることができますし、部活動を一生懸命やっていれば、共通の話題で盛り上がるかもしれません。何事も一生懸命やることで色々なことにつながることができます。つなげ方は自分次第です。学生生活を思う存分楽しんでください。

◆医学部保健学科看護学専攻
平成21年3月卒業
小原 千絵 さん秋田市福祉保健部
介護保険課 保健師

今の仕事内容、やりがい、また仕事を通じて目指していることを教えてください。

採用当時の配属先は保健所保健予防課で、今年の4月から福祉保健部介護保険課に配属となりました。保健予防課では、主に担当地区の健康増進事業や介護予防事業を担当し、実際に町内会館などへ足を運び、血圧測定や高血圧・脱水予防など、健康に関する



お話をすることもありました。介護保険課では、主に介護保険の認定調査を担当しています。保健師の仕事は「ゆりかごから墓場まで」と言われ、皆さんの人生のあらゆる場面に携わることとなります。ある場面に特化するのではなく、幅広い視野で皆さんの健康や生活のことを考えられる保健師になりたいです。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

生まれも育ちも秋田の私は、少子高齢化が進む秋田で、地域の皆さんが健康的で充実した生活を送られるよう、手助けできる仕事として保健師を目指すようになりました。また、母が医療関係の資格を持っていたこともきっかけの一つです。



秋田大学で過ごした4年間で、特に印象に残っていることを教えてください。

4年次の保健所実習です。能代市と八峰町の2カ所で実習を行いました。八峰町では健康教室に参加し、町民の皆さんの前で、学生だけで健康に関する劇を行いました。皆さんには温かい目で見守っていただき、さらに反応が返ってきたことがとても嬉しかったです。また、私を含む学生4人でロッジを借り、寝起きを共にしたことも思い出に残っています。



仕事を行う上で心掛けていることを教えてください。



保健予防課では、市民の皆さんの生活に寄り添いながら、健康状態や生活状況などについてお話を聞くようにしていました。改善が必要な場合は、指導をするのではなく、その方自身に今までの生活習慣のどこを見直すといいのかを気付いてもらうことを第一に考えていました。介護保険課では、介護保険を必要とする方が適した介護保険サービスを受けられるように、適切な調査を心がけています。

後輩にメッセージをお願いします。

学生生活を思う存分楽しんでください。学生時代は時間があります。アンテナを広げ、色々な経験をしてください。その経験が視野を広げてくれると思います。そして、自分自身が大切にしたいことや、人生でやり遂げたいことなど、軸となるものを見つけてください。その軸がしっかりしていれば、どんな時でもぶれることなく頑張ることができます。



僕らの課外活動

男子ハンドボール部

●代表／**洲脇 拓真**さん(教育文化学部 学校教育課程4年次)

プロフィール

- 平成元年設立 ●所属人数／28名
- 練習日時／火・水曜日 16:00～17:15
木曜日 18:30～21:00
土・日曜日 9:00～13:00



男子ハンドボール部の皆さん

【平成26年度の主な成績】

第59回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦大会、1部リーグ全勝優勝し、高松宮記念杯男子57回全日本学生ハンドボール選手権大会(以下、全日本インカレ)に東北地区代表として、1年ぶりに出場しました。全日本インカレでは、1回戦で東海地区の強豪校・名城大学と対戦し、接戦の末、敗れました。また、12月に開催された第51回東北総合ハンドボール選手権大会では初優勝することができました。

【チームの特徴、チームワークの秘訣】

私立大学の強豪校に比べると体格では劣りますが、その分、相手チームよりも走り回り、持ち前の機動力を生かし得点に結びつけることがチームの特徴です。チームワークを高めるために、良い雰囲気づくりを大事にしています。上級生が中心となり、練習時の声出しなど各自が率先して盛り上げています。さらに、ミーティングを重ねて、部員全員で意見を出し合い、その内容をチーム作りに反映させるようにしています。

【チームとして心がけていること】

限られた練習時間や環境の中で、試合で自分たちの力をいかに発揮できるかを部員一人ひとりが考えながら、効率良く練習することを心がけています。また、感謝の気持ちを忘れず、その気持ちを言葉で伝えることも心がけてい



平成26年11月に開催された全日本インカレ(会場:岐阜メモリアルセンター等)



平成26年12月に開催された第51回東北総合ハンドボール選手権大会で優勝

ます。私たちがハンドボールに取り組めているのは、佐藤靖監督(教育文化学部教授)、保護者、卒業生、大学関係者をはじめ多くの方々の支えがあるからこそです。中でも聖霊女子短期大学の長嶋智子准教授には、忙しい中にもかかわらず栄養バランスなど食事面でご指導いただいています。小さくても当たり負けしない体を作れているのは、長嶋准教授のおかげで、感謝の気持ちで一杯です。

【後輩たちに向けて】

4年生は12月の大会で引退しますが、後輩たちには、全国の強豪校と互角に渡り合えるだけの力をつけもらい、1戦1戦を大事に、平成27年も全日本インカレに出場してほしいです。そして、今年成し得なかった1勝以上を目標に頑張ってもらいたいです。

【受験生へメッセージ】

ハンドボールの強豪校の多くは私立大学ですが、国立大学でも全国の強豪校と互角に渡り合えるだけの力が秋田大学にはあります。秋田大学には女子ハンドボール部もあり、全日本インカレに出場した実績もあります。全国大会出場の機会を求めたい受験生は、ぜひハンドボール部に入部し、ともに汗を流しましょう。



女子ハンドボール部も全日本インカレに出場した実績があります

秋田大学復興支援団体AKITAID(アキタイド)

●代表／**西野 舜平**さん(教育文化学部 人間環境課程2年次)

【団体の取り組み】

AKITAIDは秋田大学の学生が集まって立ち上げた団体であり、東日本大震災の被災地復興支援を目的として、被害を受けた東北の皆さんのために「何かしたい」という思いで活動しています。また、AKITAIDの名前には、「AKITA(秋田)」と「AID(慈善活動)」の二つの意味が込められています。



被災地でボランティア活動



ともしびプロジェクト

【活動内容】

秋田大学の学生が年に4回のペースで被災地にバスで向かい、ボランティア活動に取り組んでいます。平成26年は6月に岩手県大船渡市を訪れ、港近くの畑の再建を手伝いました。また、「ともしびプロジェクト」を企画しており、キャンドルを灯し、東日本大震災を忘れないために全国と被災地をつなぐイベントとして定期的に開催しています。

代表としては、訪れる被災地の選定から保険の申し込みなど、地道な作業が多いですが、それ以上に人々と交流し、交友関係が広がることに喜びを感じています。ボランティア活動は決して偉いことではありませんが、作業後のありがとうの一言に元気づけられます。

【伝えたいこと】

私は復興支援に興味があり、AKITAIDに入部しました。当初は「知らない場所に行ける」と安易に考えていましたが、訪れた被災地には建物はなく、基礎部分だけが残され、ここで暮らした人々がいたことが信じられず、胸が苦しくなりました。

被災地では、がれきの撤去活動は必要なくなったものの、3年がたった今も被災地からのボランティア活動の要請は絶えません。話題になることが減り風化を感じることもあります。同世代の若者が被災地の食べ物やイベントを楽しみに訪れるだけでも復興につながると考えています。

プロフィール

- 平成23年設立 ●所属人数／30名
- 活動日時／水曜日 18:00～20:00



AKITAIDの皆さん

【今後の目標】

最終目標は、AKITAIDが活動するのが必要なくなることですが、未だボランティア活動の要請が絶えない状況が続いています。今後は、被災地のニーズに合わせた活動を展開していきたい、引き続きボランティア活動や「ともしびプロジェクト」などの追悼イベントを企画していきたいです。そして、私が初めて被災地を見て衝撃を受けたように、学生をはじめ地域の皆さんに被災地の今を知ってもらえるような活動を行っていききたいと思います。

【受験生へメッセージ】

ボランティア活動や追悼イベントなどを通じて、被災地の今を知り、私たちが被災地の皆さんのためにできることを共に考えましょう。そして、東北地方を盛り上げていきましょう。

在学学生 紹介／

広がる連携、 KAJIIYAプロジェクト

学生自主プロジェクト「KAJIIYAプロジェクト」代表

工学資源学部地球資源学科3年次 七尾 純平



緊張、鍛接の瞬間



新たな冒険用ナイフを手にした七尾さん(左)と阿部氏(右)



10月24日に行われた秋田大学OB顕彰企画展「キャラリートーク」
「夢を追う男 冒険家・阿部雅龍氏の軌跡～南極点到達を目指して～」

KAJIIYAプロジェクトは、身近な場から消えつつある「鍛冶」の技術を学び、自分たちの力で生活に役立つ刃物・道具作りを行うことを目的としています。中でも「鍛接(たんせつ)」という異なる種類の鉄を接合する技術の習得に力を入れています。私がプロジェクトに参加して3年になりますが、鍛接にはコツがいり、たまに失敗することもある難しい技術です。また、今年の9月には「たたら製鉄」も行いました。たたら製鉄は、砂鉄・木炭・炭酸カルシウムを主原料とする日本の伝統的な製鉄法です。これにより製造された「玉鋼(た



完成した次回の冒険用ナイフ
表には「ABE MASATATSU」、裏には「MADE BY NANA」と刻印

が、チタンは鉄に比べ非常に伸びにくく、鍛造後の整形作業もヤスリが掛かりにくいため、非常に苦労しました。完成したナイフは、阿部氏に平成26年の北極圏での冒険で使用していただき、冒険後のナイフは心配していた刃こぼれも無く、きちんとした状態で阿部氏と共に帰国してきました。

今回の冒険をフィードバックして、次回の冒険用のナイフを製作しました。材質は64チタンを使用し、前回よりも小ぶりで細身に仕上げました。重量は、鞘を入れても約90gと非常に軽量です。刀身から鞘まで完全に手作り品です。現在は熱効率の良い鍋を製作中で、今後も阿部氏の冒険用品の開発に力を入れていく予定です。

Column 文章力up



やはり来たか。冬。秋田の風景が一気に変わりました。山並みが燃えているように見えていた日も、あったような気がしました。田んぼが黄金色に揺れたり、鮮やかな緑色だったりした時も確かにありました。そんな風景が、だいたい昔のころのようににすら思っています。この原稿を書いている今も、窓外では雪がキャンパスを染めています。手加減なんて言葉を知らないような、かなりの厚化粧です。寒い、厳しい、つらい……。冬の「悪口」ならいくらでも表現できそうですが、学生生活を過ごした(秋田という)地を、そして短いとはいえない(冬という)時間を、否定してしまうだけではおもしろくありません。「南国の学生」相手に、黙って

くりましょう。人の文章を読めば読むほど、自分の文章力がアップします。メール全盛ですが、年賀状も書いてみませんか。例え定型文を印刷した年賀状でも、自筆で書き加えた一言に感性がにじみます。あなたの年賀状を受け取る人を思い浮かべて、どんな言葉を添えるのか。悩んだ分だけ素敵な一行になります。さて、今回は学生さんたちに、文章のトレーニング方法を一つだけ「提案」させていただきます。やることは簡単。「ふと思う」だけで良いのです。朝、目覚めてカーテンを開ける。見慣れた風景。そこで、ふと思う。外出。通い慣れた道。そこで、ふと思う。学食。食べ尽くしたメニュー。でもうまい。そして、ふと思う。教室。先週もあり、次週も続く講義。毎週同じ時間、聞き慣れた教員の声。膨大な情報が頭に吸い込まれていく間のふとした瞬間に、思う。一日に何度か、「思う」ことを「意識」する。これは、考えることを意識する、感じることを意識する、とも同意語です。日常の中で、改めて思う(感じる)こと。この積み重ねで育った感性を、飾らずに単純な言葉で書く。それがエントリーシートだったのなら、合格。(たぶん)採用です。

秋田大学副理事・国際担当

(元朝日新聞記者)

高橋 康弘

イベント&講座・講習会

平成26年度 秋田大学イルミネーション

街づくりの一環として夜の学園街を生き生きとした魅力的な場に変え、学生だけではなく地域の方々にも親しんでもらえるよう、イルミネーションを点灯しています。



- 1月18日(日)まで 16:00～明朝6:00
- 手形キャンパス インフォメーションセンター
- ☎018-889-3019(広報課)

平成26年度 第3回 阿仁郷土文化保存伝承館・ 鉱業博物館連携展

「道が支えた阿仁鉱山一米の道、炭の道、銅の道」



- 1月18日(日)まで 9:00～17:00
- 阿仁郷土文化保存伝承館
(北秋田市阿仁銀山字下新町41-22)
- 休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)
- 入場料／大人400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※北秋田市内の小中学生は無料
(団体15名以上それぞれ100円引き)
- ☎0186-82-3658(阿仁郷土文化保存伝承館)

産学イブニング・サロンあきた(SESSA)

産(企業)、学(大学)、官(行政)らが集い、切磋琢磨する交流の場、大学の研究を説明する対話の場。自由に語らいながら秋田の未来につながるヒントを探します。

- 【第32回】●1月22日(木)18:00～20:00
- 【第33回】●2月26日(木)18:00～20:00
- 【第34回】●3月26日(木)18:00～20:00
- 手形キャンパス 大学会館
- 会費1,000円(軽食等の提供あり)
- ☎018-889-2712(産学連携推進機構)

平成26年度 秋大憩いのコンサート

- 【第52回】●1月25日(日)14:00～
“教員と学生による音楽コンサート”
- 【第53回】●2月22日(日)14:00～
“革新の響き～20世紀のピアノ音楽”
- 【第54回】●3月28日(土)14:00～
“ギター音楽の歩み～16世紀から現代まで”
- 手形キャンパス インフォメーションセンター
- 入場無料
- ☎018-889-2647(教育文化学部 斎藤准教授)

秋田大学男鹿なまはげ分校事業 ーニコニコ体操塾ースローエアロビック講座

- 子どもから大人まで誰もが楽しく気持ちよくなる、身近な音楽を使った体に優しい運動、これが「スローエアロビック」です。
- 3月27日(金)13:30
- 男鹿市総合体育館 サブアリーナ
- 対象／どなたでも参加いただけます ●参加無料
- 指導／秋田県エアロビック連盟インストラクター
- ☎018-889-3201(地域創生課)

秋田大学卒業式

- 3月22日(日)10:30～
- 秋田県民会館(秋田市千秋明徳町2-52)
- ☎018-889-2207(総務企画課)

秋田大学入学式

- 4月5日(日)10:30～
- 秋田県民会館(秋田市千秋明徳町2-52)
- ☎018-889-2207(総務企画課)

平成27年度 秋田大学入学者 選抜日程

一般入試(前期日程)

- 試験実施日
平成27年2月25日(水)・26日(木)
- 合格発表
平成27年3月6日(金)

一般入試(後期日程)

- 試験実施日
平成27年3月12日(木)
- 合格発表
平成27年3月21日(土)

※募集人員、選抜方法等については、一般入試学生募集要項を必ずご確認ください。

秋田大学広報誌〈アプリーレ〉No.47 アンケートご協力をお願い

秋田大学では、今後のより良い広報誌づくりのため、皆様からのご意見やご要望、次号以降への情報提供をお待ちしています。

WEBアンケートでもご回答いただけます。

秋田大学 アプリーレ 検索



抽選で10名様に 横手分校の「いぶりばでい」と
秋田の名湯 乳頭温泉郷の入浴剤をセットでプレゼント!!

【Q.1】あなた様についてお聞かせください。

- I) 性別／A.男 B.女
- II) 今号の入手場所／A.秋田大学内 B.学外(場所:)
- III) ご職業／
〈学生等〉A.受験生 B.秋田大学生 C.他大学の学生
D.その他の学生・生徒()
〈社会人〉E.会社員 F.自営業 G.公務員・団体職員
H.主婦 I.秋田大学職員 J.他機関の教職員
K.その他()

【Q.2】秋田大学の活動をどのように知りましたか。(複数回答可)

- A.秋田大学広報誌〈アプリーレ〉 B.大学公式ホームページ
- C.SNS D.新聞 E.テレビ F.知人から G.学生から
- H.家族から I.チラシ・ポスター J.その他()

【Q.3】これまでに本誌をご覧になったことはありますか。
また、媒体名をお教えてください。

ある(媒体／A.紙面 B.電子ブック) C.ない

【Q.4】本誌をご覧になって、秋田大学への関心度は変わりましたか。

- A.高くなった B.少し高くなった C.変わらない
- D.少し低くなった E.低くなった F.なんともいえない

【Q.5】本誌で最も興味を持った記事は何ですか。

() ページの() 理由()

【Q.6】特に興味がなかった記事はありますか。

() ページの() 理由()

【Q.7】本誌の内容や大学広報に対するご意見・感想をお聞かせください。

()

【Q.8】秋田大学ホームページをご覧になったことがありますか。

- A.ある I) 見やすさについて
a.見やすい b.見にくい c.どちらでもない
- II) 情報量について
d.充実している e.少ない f.どちらでもない
- III) 総合評価
g.大変良い h.良い i.普通 j.悪い
k.大変悪い l.なんともいえない

B.ない

【Q.9】秋田大学インフォメーションセンターをご存じですか。

- A.はい I) インフォメーションセンターに来館したことがありますか。
a.はい b.いいえ
- II) 常設展、企画展を行っているのをご存じですか。
a.はい b.いいえ

B.いいえ

【応募方法】官製はがき、FAXに①アンケート②お名前③年齢④ご住所⑤電話番号を

明記の上、下記の宛先まで送付ください。
WEBアンケートでもご回答いただけます。

【応募締切】平成27年2月27日(金) 必着

※賞品の発送をもって発表と代えさせていただきます。
〈個人情報について〉ご提供いただいた個人情報は、当選者への発送のみに使用します。他の目的に使用することはありません。

〈お問い合わせ・送付先〉秋田大学広報課

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学広報課
☎018-889-3019 FAX.018-889-2219

〈記入例〉	
【Q1】I)A	II)B
() () () () ()	() () () () ()
【Q2】A,B,D,E	
【Q3】A	
【Q4】A	
【Q5】○ページの○○	
(理由)	



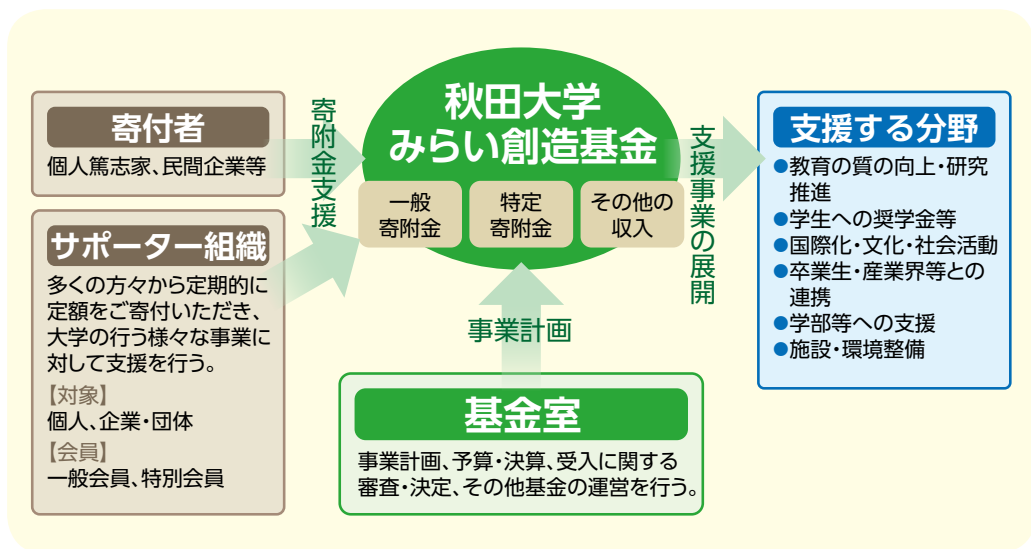
秋田駅直結のベストロケーション

秋田ステーションビル株式会社
Tópico AIS ホテルメトロポリタン秋田
〒010-8530 秋田市中通7丁目2番1号 TEL.018-831-2222



「秋田大学みらい創造基金」へのご協力をお願い申し上げます。

秋田大学は、教育研究及び社会貢献・国際化等に関する活動をさらに活性化し、社会を支える優秀な人材を輩出することで、世界・地域を視野に入れた21世紀の豊かな未来を創造するために「秋田大学みらい創造基金」を創設しております。この基金の趣旨をご理解いただき、皆様のあたたかいご支援、ご協力をお願い申し上げます。



秋田大学みらい創造基金は秋田大学公式ホームページからもお申し込みいただけます。

秋田大学 みらい 検索

【秋田大学の基本理念】

- 国際的な水準の教育研究の遂行
- 地域の振興と地球規模の課題解決に寄与
- 国の内外で活躍する有為な人材の育成

【基金の使途】

- 教育の質の向上及び研究の推進支援
- 学生への奨学金等支援
- 教職員・学生等の国際化・文化・社会活動等支援
- 卒業生・産業界等との連携支援
- 学部等への支援
- 施設・環境整備の充実
- その他基金の目的達成に必要な事業

【税制上の減免措置】

基金にご寄附いただくと個人・法人とも税制上の減免措置が受けられます。

〈個人からのご寄附〉

寄附金が2,000円を超える場合、その超えた金額が当該年の所得から控除されます。ただし、寄附金の額が総所得金額等の40%を上回る場合は、40%を限度とされます。

〈法人からのご寄附〉

その金額が損金に算入されます。

〈お問い合わせ先〉

秋田大学 みらい創造基金事務局

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

☎018-889-2207

kikin@jimu.akita-u.ac.jp

秋田のコレカウをつくる。



秋田まちづくり株式会社

〒010-0001 秋田市中通一丁目4番32号 秋田センタービル7F
TEL:018-874-7500 FAX:018-832-1198



2015年1月下旬OPEN 2015年春OPEN